

コア観察カード⇒報告書柱状図記載記事チェックシート(H24-B14-2)

孔名:H24-B14-2

コア観察カード			適正化すべき記事内容			報告書柱状図記事			コア観察カードの適正化すべき記事内容から記事を削除・変更・追記した理由 (コア観察カードからの変更点) (コア観察カードを適正化している場合は、それとの変更点)
上端深度	下端深度	記事	上端深度	下端深度	記事 (変更箇所を半書きで表示) (変更していないものは「-」で表示)	上端深度	下端深度	記事内容	
		コア観察カードから正しく転記されているか? <input checked="" type="checkbox"/>							
417	90.08	90.56	90.08	90.56	46°程度の中等度の割れ目が多く、主に岩片状～塊状で採取される。	90.08	90.56	90.00～90.56m: 傾斜45°程度の割れ目が多く、岩片状を量する。	-
413	-	-	90.44	90.44	傾斜45°、幅3～8mmの石英脈を挟む。	90.44	90.44	90.44m: 傾斜45°で幅3～8mmの石英脈を挟む。	-
414	91.08	91.13	-	-	-	91.08	91.13	91.08～91.13m: 細かい割れ目が発達し、実質も認められ、細塊状を量する。	-
415	91.13	91.13	-	-	-	91.13	91.13	91.13m: 傾斜40°の割れ目に黄鉄鉱が晶出する。	-
416	91.48	91.63	91.48	91.63	(コアの形状欄) Vランク	91.48	91.63	(コアの形状欄) IVランク	-
417	91.48	91.63	91.48	91.63	中等度の割れ目が多く、主に岩片状～塊状で採取される。	91.48	91.63	91.48～91.63m: 傾斜10～50°の割れ目が多く、主に岩片状～塊状を量する。	-
418	-	-	91.53	93.00	傾斜45～90°、幅5～10mmの石英脈が連続して分布する。	91.53	93.00	91.53～93.00m: 傾斜65～90°で幅5～10mmの石英脈が連続して分布する。	-
419	92.13	92.13	-	-	-	92.13	92.13	92.13m: 傾斜40°の割れ目に黄鉄鉱が晶出する。	-
420	92.63	93.58	92.63	92.99	割れ目間隔が10cm以上となり、コアは柱状。	-	-	-	記事欄以外から読み取れるコアの形状の情報は記載しない
421	93.58	94.10	93.58	94.10	(コアの硬さ欄) Cランク (岩級区分欄) CL	93.58	94.10	(コアの硬さ欄) Bランク (岩級区分欄) CM	-
422	93.64	93.64	-	-	-	93.64	93.64	93.64m: 傾斜40°の割れ目に黄鉄鉱が晶出する。	-
423	94.00	94.10	94.00	94.10	(コアの形状欄) Vランク	94.00	94.10	(コアの形状欄) IVランク	-
424	94.00	94.63	94.10	94.63	低～中等度の割れ目が多く、岩片状～塊状コアで採取される。	94.10	94.63	94.10～94.63m: 傾斜10～45°程度の割れ目が多く、岩片状～塊状を量する。	-
425	94.24	94.24	94.24	94.24	45°の割れ目に厚さ1～2mmの灰白色砂質粘土を介在する。	94.24	94.24	94.24m: 傾斜45°で幅1～2mmの灰白色砂質粘土を挟む。	-
426	94.34	94.34	-	-	-	94.34	94.37	94.34m、94.37m: 傾斜40°の割れ目に黄鉄鉱が晶出する。	記事内容が同じであるため、94.37mの記事を含めて記載した
427	94.37	94.37	-	-	-	-	-	-	上記でまとめた書きのため記載しない
428	94.63	95.07	94.63	95.07	(割れ目状態欄) aランク	94.63	95.07	(割れ目状態欄) bランク	-
429	94.63	96.44	94.63	96.44	(コアの硬さ欄) cランク	94.63	96.44	(コアの硬さ欄) bランク	-
430	95.00	96.97	95.00	96.97	(風化欄) γランク	95.00	96.97	(風化欄) βランク	-
431	95.07	96.03	95.07	96.03	中等度の割れ目が多く、岩片状～塊状で採取される。	95.07	96.03	95.07～96.03m: 傾斜10～50°の割れ目が多く、岩片状～塊状を量する。	-
432	95.34	95.43	-	-	-	95.34	95.43	95.34～95.43m: 細かい割れ目が発達し、細塊状を量する。	-
433	95.36	95.36	95.36	95.36	ほぼ鉛直な割れ目に厚さ1mmの灰白色粘土を挟む。	95.36	95.36	95.36m: ほぼ鉛直な割れ目に厚さ1mmの灰白色粘土を挟む。	-
434	96.38	96.54	96.38	96.54	中等度の割れ目が発達し、主に塊状で採取される。	96.38	96.54	96.38～96.54m: 傾斜45°程度の割れ目が発達し、主に塊状を量する。	-
435	96.44	96.64	-	-	実質が認められ、やや軟質である。	96.44	96.64	96.44～96.64m、96.80～96.97m: 実質が認められ、やや軟質である。	記事内容が同じであるため、96.80～96.97mの記事を含めて記載した
436	96.54	96.64	-	-	細かい割れ目が発達し、主に細塊状で採取される。	96.54	96.64	96.54～96.64m: 細かい割れ目が発達し、細塊状を量する。	-
437	96.80	96.97	-	-	実質が認められ、やや軟質である。	-	-	-	上記でまとめた書きのため記載しない

コア観察カード⇒報告書柱状図記載記事チェックシート(H24-B14-2)

孔名: H24-B14-2

コア観察カード			適正化すべき記事内容			報告書柱状図記事			コア観察カードの適正化すべき記事内容から記事を削除・変更・追記した理由 (コア観察カードからの変更点) (コア観察カードも適正化している場合は、それとの変更点)	
上端深度	下端深度	記事 コア観察カードから正しく転記されているか? <input checked="" type="checkbox"/>	上端深度	下端深度	記事 (変更箇所を赤字で表示) (変更していないものは「-」で表示) 追加変更した情報が正しく転記されているか? <input checked="" type="checkbox"/>	上端深度	下端深度	記事 適正化した記事内容		
438	96.97	97.06	(割れ目状態欄)Cランク	96.97	97.06	(割れ目状態欄)Cランク	96.97	97.06	(割れ目状態欄)Cランク	-
			(岩級区分欄)CM			(岩級区分欄)CH			(岩級区分欄)CH	-
439	96.97	97.50		96.97	97.50		96.97	97.50		-
440	97.06	100.40	(割れ目状態欄)Cランク	97.06	100.40	(割れ目状態欄)Cランク	97.06	100.40	(割れ目状態欄)Cランク	-
441	97.50	98.09	中～高角度の割れ目が多く、主に岩片状～塊状で採取される。	97.50	98.09	45～70°の割れ目が多く、主に岩片状～塊状で採取される。	97.50	98.09	97.50～98.09m: 傾斜45～70°の割れ目が多く、岩片状～塊状を呈する。	-
442	97.60	98.08	(コアの硬さ欄)Cランク	97.60	98.08	(コアの硬さ欄)Bランク	97.60	98.08	(コアの硬さ欄)Bランク	-
443	97.83	97.86	細かい割れ目が発達し、細塊状で採取される。	-	-	-	97.83	97.86	97.83～97.86m: 細かい割れ目が発達し、細塊状を呈する。	-
444	98.28	100.40	不規則な割れ目が多く、主に岩片状～塊状で採取される。	-	-	-	98.28	100.40	98.28～100.40m: 不規則な割れ目が多く、岩片～塊状を呈する。	-
445	98.28	100.40	(コアの硬さ欄)Cランク	98.28	100.40	(コアの硬さ欄)Bランク	98.28	100.40	(コアの硬さ欄)Bランク	-
446	98.84	98.94	(コアの形状欄)Vランク	98.84	98.94	(コアの形状欄)IVランク	98.84	98.94	(コアの形状欄)IVランク	-
447	99.61	99.66	細かい割れ目が多く、変質が認められ、やや軟質である。	-	-	-	99.61	99.66	99.61～99.66m: 細かい割れ目が多く、変質が認められ、やや軟質である。	-
448	-	-	-	99.94	99.94	傾斜25° 幅5mmで橙色のかり長石が脈状に分布する。	99.94	99.94	99.94m: 傾斜25°で幅5mmの橙色のかり長石が脈状に分布する。	-
449	100.40	100.52	細かい割れ目が発達し、変質を受け、やや軟質で、塊状～土砂状で採取される。	-	-	-	100.40	100.52	100.40～100.52m: 細かい割れ目が発達し、変質を受け、やや軟質で、塊状～土砂状を呈する。	-
450	100.52	100.75	(割れ目状態欄)Cランク (コアの硬さ欄)Cランク	100.52	100.75	(割れ目状態欄)Cランク (コアの硬さ欄)Bランク	100.52	100.75	(割れ目状態欄)Cランク (コアの硬さ欄)Bランク	-
451	100.75	101.03	変質が明瞭で、やや軟質である。	-	-	-	100.75	101.03	100.75～101.03m: 変質が明瞭で、やや軟質である。	-
452	100.90	101.03	細かい割れ目が発達し、土砂に近い状態で採取される。	-	-	-	100.90	101.03	100.90～101.03m: 細かい割れ目が発達し、ほほ土砂状を呈する。	-
453	101.03	101.47	(割れ目状態欄)Cランク	101.03	101.47	(割れ目状態欄)Cランク	101.03	101.47	(割れ目状態欄)Cランク	-
454	101.47	101.52	破砕帯	101.47	101.52	破砕帯 最新活動面は101.50m				-
455	101.47	101.50	破砕を受け、変質も著しく、灰白色粘土質砂状を呈する。225°、(Hb)。	101.47	101.50	破砕を受け、変質も著しく、灰白色粘土質砂状を呈する。225°で直線的に連続。(Hb)。径2～5mmの岩片を含む。やや硬質。含まれる細粒部は割れ目状に分布。原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織が見られる。幅30mm。				-
456	-	-	-	101.50	101.50	灰白色のフィルム状粘土を伴う。直線性が良い。	101.47	101.52	●101.47～101.52m: 破砕帯 101.47～101.50m: 粘土質砂状部(Hb) 傾斜25°で直線的に連続。下部に灰白色のフィルム状粘土を伴う。径2～5mmの岩片を含む。変質が進み、灰白色を呈する。幅30mm。 101.50～101.52m: 粘土混じり砂状部(Hb) 上層25°、下層20°で直線的に連続。径20mm以下の岩片主体。灰白～明褐色を呈する。幅20mm。	-
457	101.50	101.52	粘土混じり砂塊状(Hb)	101.50	101.52	粘土混じり砂塊状(Hb) 上層25°、下層20°で直線的に連続。 硬質で、径20mm以下の岩片主体。含まれる細粒部は局所的に分布し、原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織が見られる。灰白～明褐色を呈する。幅20mm。				-
458	101.52	102.09	(割れ目状態欄)Cランク (コアの硬さ欄)Cランク	101.52	102.09	(割れ目状態欄)Cランク (コアの硬さ欄)Bランク	101.52	102.09	(割れ目状態欄)Cランク (コアの硬さ欄)Bランク	-
459	-	-	-	102.11	103.92	径1～3cm程度のかり長石の大型斑晶が目立つ。	102.11	103.92	102.11～103.92m: 径1～3cm程度のかり長石の大型斑晶が目立つ。	-
460	102.55	102.94	中角度の割れ目が多く、岩片状～細塊状で採取される。	102.55	102.94	10～50°の割れ目が多く、岩片状～細塊状で採取される。	102.55	102.94	102.55～102.94m: 傾斜10～50°の割れ目が多く、岩片～細塊状を呈する。	-



コア観察カード⇒報告書柱状図記載記事チェックシート(H24-B14-2)

孔名: H24-B14-2

コア観察カード			適正化すべき記事内容			報告書柱状図記事			コア観察カードの適正化すべき記事内容から記事を削除・変更・追記した理由 (コア観察カードからの変更点) (コア観察カードを適正化している場合は、それとの変更点)	
記事			記事 (変更箇所を半書きで表示) (変更していないものは「-」で表示)			選定した記事内容				
上端深度	下端深度	記事	上端深度	下端深度	記事	上端深度	下端深度	記事		
		コア観察カードから正しく転記されているか? <input checked="" type="checkbox"/>			追加変更した情報が正しく転記されているか? <input checked="" type="checkbox"/>					
461	102.94	103.11	(割れ目状態欄)αランク (コアの形状欄)Ⅴランク	102.94	103.11	(割れ目状態欄)αランク (コアの形状欄)Ⅴランク	102.94	103.11	(割れ目状態欄)αランク (コアの形状欄)Ⅴランク	-
462	102.94	103.11	細かい割れ目が発達し、変質も明瞭で、礫状～土砂状で採取される。一部灰白色粘土が脈状に混在する。	102.94	103.11	細かい割れ目が発達し、緑色変質も明瞭で、礫状～土砂状で採取される。一部灰白色粘土が脈状に混在する。	102.94	103.11	102.94～103.11m:細かい割れ目が発達し、緑色に変質し、礫状～土砂状を呈する。一部灰白色粘土を脈状に伴う。	-
463	-	-	-	103.11	103.53	径0.5～10mm程度の灰色の長石の斑晶が目立つ。	103.11	103.53	103.11～103.53m:径0.5～10mm程度の灰色の長石の斑晶が目立つ。	-
464	103.11	103.93	(割れ目状態欄)αランク	103.11	103.93	(割れ目状態欄)αランク	103.11	103.93	(割れ目状態欄)αランク	-
465	103.11	103.93	中角度の割れ目が多く、低角度の潜在割れ目が発達する。全体に弱い変質を受けている。	103.11	103.93	20～60°の割れ目が多く、5～10°の潜在割れ目が発達する。全体に弱い変質を受けている。	103.11	103.93	103.11～103.93m:傾斜20～60°の割れ目が多く、傾斜5～10°の潜在割れ目が発達する。全体に弱く変質する。	-
466	-	-	潜在割れ目もなく、柱状コアを主とする。	103.93	104.01	潜在割れ目も少なく、短柱状コアを主とする。	103.93	104.01	103.93～104.01m:潜在割れ目も少なく、短柱状コアを主とする。	-
467	104.44	105.54	中角度の割れ目が多く、主に岩片状で採取される。	104.44	105.54	10～50°の割れ目が多く、主に岩片状で採取される。	104.44	105.54	104.44～105.54m:傾斜10～50°の割れ目が多く、岩片状を呈する。	-
468	104.44	104.61	(コアの形状欄)Ⅴランク (地層区分欄)CM	104.44	104.61	(コアの形状欄)Ⅴランク (地層区分欄)CM	104.44	104.61	(コアの形状欄)Ⅴランク (地層区分欄)CM	-
469	104.44	105.54	(割れ目状態欄)αランク	104.44	105.54	(割れ目状態欄)αランク	104.44	105.54	(割れ目状態欄)αランク	-
470	-	-	-	104.47	104.65	径3～10mmの橙色のカリ長石の斑晶が目立つ。	104.47	104.65	104.47～104.65m:径3～10mmの橙色のカリ長石の斑晶が目立つ。	-
471	105.00	105.54	(コアの硬さ欄)Cランク	105.00	105.54	(コアの硬さ欄)Bランク	105.00	105.54	(コアの硬さ欄)Bランク	-
472	105.54	105.61	破砕帯(主として新面; 105.01m)	105.54	105.61	破砕帯(最新活動面は上端105.54m)105.61mの可能性がある	105.54	105.61	●105.54～105.61m:破砕帯 シルト混じり砂礫状部(H) 上縁45°、下縁45°とともに直線的に連続。径30mm以下の岩片主体で灰白色粘土が脈状に分布する。変質が著しく、オリブ灰色を呈する。	*破砕、崩壊組織が認められる岩片を主体とし、基質も細粒化した岩片からなる組織の有無、境界面や細粒部の連続性、直線性、最新活動面の記載は別資料で示すこととし、柱状図には記載しない。
473	105.54	105.61	45°の割れ目間には破砕を受け、変質が著しく、土砂状を呈する。灰白色粘土が脈状に混在する。	105.54	105.61	45°の割れ目間には破砕を受け、変質が著しい。土砂状を呈する。灰白色粘土が脈状に混在する。シルト混じり砂礫状部(H)を呈する。 上縁45°、下縁45°とともに直線的に連続。径30mm以下の岩片主体。オリブ灰色を呈し、硬質で、含まれる組織は前帯的に分別し、崩壊組織が認められる岩片を主体とし、基質も細粒化した岩片からなる組織も認められる。	105.54	105.61		
474	105.61	106.22	(割れ目状態欄)αランク	105.61	106.22	(割れ目状態欄)αランク	105.61	106.22	(割れ目状態欄)αランク	-
475	105.61	107.12	(コアの硬さ欄)Cランク	105.61	107.12	(コアの硬さ欄)Bランク	105.61	107.12	(コアの硬さ欄)Bランク	-
476	105.61	107.12	中角度の割れ目が多く、主に岩片状～礫状で採取される。	105.61	107.12	30～50°の割れ目が多く、主に岩片状～礫状で採取される。	105.61	107.12	105.61～107.12m:傾斜30～50°の割れ目が多く、主に岩片状～礫状を呈する。	-
477	106.22	106.34	45°の割れ目が卓越し、その割れ目には白色鉱物が晶出し、割れ目周囲には変質が見られる。	-	-	-	106.22	106.34	106.22～106.34m:傾斜55°の割れ目が卓越し、割れ目には白色鉱物が晶出し、割れ目周囲に変質が見られる。	-
478	106.48	106.49	410°、420°の割れ目には、厚さ3～6mmの暗緑灰色の粘土質砂が挟み、7.5GY3/1暗緑灰。	106.48	106.49	410°、420°の割れ目には、厚さ3～6mmの暗緑灰色の粘土質砂が挟み、白色鉱物を伴う。	106.48	106.49	106.48～106.49m:傾斜15°、傾斜50°の割れ目に幅3～6mmの暗緑灰色の粘土質砂を挟み、白色鉱物を伴う。	-
479	106.68	106.69	45°の割れ目沿いには、灰白色砂・細礫混じり粘土が介在する。	106.68	106.69	45°の割れ目沿いには、灰白色砂・細礫混じり粘土を挟み、白色鉱物を伴う。	106.68	106.69	106.68～106.69m:傾斜55°の割れ目に灰白色砂・細礫混じり粘土を伴う。	-
480	106.78	106.83	黒色変質部、415°。	106.78	106.83	ドレライト脈、415°。やや基質が粗粒で方解石の細脈が見られる。アプライトとの境界は明瞭である。アプライトよりは軟質である。高角度の割れ目にも貫入している。	106.78	106.83	106.78～106.83m:傾斜15°のドレライト脈を伴う。やや基質が粗粒で方解石の細脈が見られる。アプライトとの境界は明瞭である。アプライトよりは軟質である。高角度の割れ目にも貫入している。	-
481	106.78	106.80	粘土質砂・細礫状、450°、7.5GY3/1(暗緑灰)。	106.78	106.80	ドレライトの変質部で粘土質砂・細礫状を呈する。450°、暗緑灰色(7.5GY3/1)を呈する。	106.78	106.80	106.78～106.80m:傾斜50°のドレライト脈の変質部で、暗緑灰色の粘土質砂・細礫状を呈する。	-
482	106.91	106.92	黒色変質部、不規則。106.83mの変質部と細脈で連続。	106.91	106.92	ドレライト脈、不規則。106.83mのドレライト脈と高角度割れ目の細脈で連続する。	106.91	106.92	106.91～106.92m:不規則な形状のドレライト脈と高角度割れ目の細脈で連続する。	-
483	107.12	107.29	中～高角度の割れ目が多く、主に角礫状で採取される。高角度の割れ目沿いには変質が進行し、シルト質砂礫状を呈する。	107.12	107.29	45～90°の滑曲した割れ目が多く、主に角礫状で採取される。高角度の割れ目沿いには変質が進行し、シルト質砂礫状を呈する。	107.12	107.29	107.12～107.29m:傾斜45～90°の滑曲した割れ目が多く、角礫状を呈する。高角度の割れ目沿いに変質が進み、シルト質砂礫状を呈する。	-

コア観察カード⇒報告書柱状図記載記事チェックシート(H24-B14-2)

孔名:H24-B14-2

コア観察カード			適正化すべき記事内容				報告書柱状図記事			コア観察カードの適正化すべき記事内容から記事を削除・変更・追記した理由 (コア観察カードからの変更点)
上端深度	下端深度	記事	上端深度	下端深度	記事 (記事箇所を本書まで表示) (変更していないものは「-」で表示)	上端深度	下端深度	選定した記事内容		
		コア観察カードから正しく転記されているか? <input checked="" type="checkbox"/>			追加変更した情報が正しく転記されているか? <input checked="" type="checkbox"/>					
484	107.29	107.45						107.29~107.45m: 砂~細礫状を呈し、灰白色粘土層が網目状に分布する。		
485	107.30	107.31		107.30	107.31	幅3~9mmの暗灰色変質部で砂状を呈する。幅1mm以下の暗灰色粘土を不連続に挟む。変質部に含まれる岩片に定向配列は見られない。暗灰色粘土は分級する。砂質粘土破砕(多少固結)-厚さ3~9mm-黄鉄鉱を伴う。△55°	107.30~107.31m: 傾斜45°で幅3~9mmの暗灰色変質部で砂状を呈する。幅1mm以下の暗灰色粘土を不連続に挟む。変質部に含まれる岩片に定向配列は見られない。暗灰色粘土は分級し、黄鉄鉱を伴う。			
486	107.45	107.55	(コアの形状欄)Vランク	107.45	107.55	(コアの形状欄)Vランク	107.46	107.56	(コアの形状欄)Vランク	
487	107.45	108.11	中~高角度の割れ目が多く、主に角礫岩片状で採取される。	107.45	108.11	多方向の割れ目が多く、主に角礫岩片状で採取される。割れ目沿いに緑色変質している。	107.45	108.11	107.45~108.11m: 多方向の割れ目が多く、角礫状を呈する。割れ目沿いに緑色変質する。	
488	107.55	107.81	(コアの硬さ欄)Cランク	107.55	107.81	(コアの硬さ欄)Bランク	107.55	107.81	(コアの硬さ欄)Bランク	
489	107.81	108.11	高角度の割れ目沿いには変質が進行し、シルト質砂礫状を呈する。	-	-	-	107.81	108.11	107.81~108.11m: 高角度の割れ目沿いに変質が進み、シルト質砂礫状を呈する。	
490	108.28	108.33	(変質欄)2ランク	108.28	108.33	(変質欄)3ランク	108.28	108.33	(変質欄)3ランク	
491	108.29	108.29	△57°の割れ目に灰白色粘土1~2mm存在。	108.29	108.29	△57°の割れ目に灰白色の方解石層。幅1~2mm存在。	108.29	108.29	108.29m: 傾斜57°で幅1~2mmの灰白色の方解石層を挟む。	
492	108.33	109.16	全体に変質を受け、緑灰~明緑灰色を呈する。原岩組織はやや不明瞭である。	-	-	-	108.33	109.16	108.33~109.16m: 全体に寄質を受け、緑灰~明緑灰色を呈する。原岩組織はやや不明瞭である。	
493	108.33	108.55	(色調欄)10GY8/1(明緑灰)	108.33	108.55	(色調欄)7.5YR7/2(明緑灰)	108.33	108.55	(色調欄)明緑灰	
494	-	-	-	108.94	108.94	傾斜50°、幅0~8mmの方解石層を挟む。	108.94	108.94	108.94m: 傾斜50°で幅0~8mmの方解石層を挟む。	
495	109.00	110.00	(RQD欄)26 (最大コア長欄)15	109.00	110.00	(RQD欄)0 (最大コア長欄)0	108.00	110.00	(RQD欄)0 (最大コア長欄)9	
496	109.16	109.46	109.16~109.46: 破砕帯(0-1破砕帯)(主とん断面: 109.16)	109.16	109.46	109.16~109.46m: 破砕帯(0-1破砕帯)+最新活動面: 109.16m)	108.00	110.00	●109.16~109.46m: 破砕帯 109.16~109.18m: 細礫混じり粘土状部(Hc-2) 傾斜75°、明緑灰色を呈する。幅2~10mm。 109.18~109.30m: 粘土質礫状部(Hb) 傾斜75°で直線的に連続。径2~30mmの礫主体で細粒部が分布する。変質が著しく、明緑灰色を呈する。幅60mm。 109.30~109.32m: 微細混じり粘土状部(Hc-2) 上傾75°、下傾80°、明緑灰色を呈する。幅10~20mm。 109.32~109.46m: 粘土混じり礫状部(Hg) 上傾80°でやや波打って、下傾80°で湾曲して連続。下端には幅1mmの白色粘土を伴う。径2~30mmの礫主体で細粒部が分布する。明緑灰色を呈する。幅60mm程度。	
497	109.16	109.18	△75°、細礫混じり粘土状。幅2~10mm。(Hc-2)。	109.16	109.18	△75°の直線的な割れ目間の幅0mmは、変質が著しく、粘土質砂・細礫状である。(Hb)。上側の2~10mm、下側の10~20mmは砂質粘土(Hc-2)粗粒部が不規則に分布する。理質で、径2~30mmの礫主体で、含まれる細粒部は網目状に分布し、原岩組織が認められる岩片を主体とし、基質も細粒化した岩片からなる組織は見られる。明緑灰色を呈する。	109.16	109.46	●109.16~109.46m: 破砕帯 109.16~109.18m: 細礫混じり粘土状部(Hc-2) 傾斜75°、明緑灰色を呈する。幅2~10mm。 109.18~109.30m: 粘土質礫状部(Hb) 傾斜75°で直線的に連続。径2~30mmの礫主体で細粒部が分布する。変質が著しく、明緑灰色を呈する。幅60mm。 109.30~109.32m: 微細混じり粘土状部(Hc-2) 上傾75°、下傾80°、明緑灰色を呈する。幅10~20mm。 109.32~109.46m: 粘土混じり礫状部(Hg) 上傾80°でやや波打って、下傾80°で湾曲して連続。下端には幅1mmの白色粘土を伴う。径2~30mmの礫主体で細粒部が分布する。明緑灰色を呈する。幅60mm程度。	
498	109.18	109.30	△75°の割れ目間の幅0mmは、変質が著しく、粘土質砂・細礫状である。(Hb)。上側の2~10mm、下側の10~20mmは砂質粘土(Hc-2)粗粒部が不規則に分布する。理質で、径2~30mmの礫主体で、含まれる細粒部は網目状に分布し、原岩組織が認められる岩片を主体とし、基質も細粒化した岩片からなる組織は見られる。明緑灰色を呈する。	109.18	109.30	△75°の直線的な割れ目間の幅0mmは、変質が著しく、粘土質砂・細礫状である。(Hb)。上側の2~10mm、下側の10~20mmは砂質粘土(Hc-2)粗粒部が不規則に分布する。理質で、径2~30mmの礫主体で、含まれる細粒部は網目状に分布し、原岩組織が認められる岩片を主体とし、基質も細粒化した岩片からなる組織は見られる。明緑灰色を呈する。	109.18	109.46	●109.16~109.46m: 破砕帯 109.16~109.18m: 細礫混じり粘土状部(Hc-2) 傾斜75°、明緑灰色を呈する。幅2~10mm。 109.18~109.30m: 粘土質礫状部(Hb) 傾斜75°で直線的に連続。径2~30mmの礫主体で細粒部が分布する。変質が著しく、明緑灰色を呈する。幅60mm。 109.30~109.32m: 微細混じり粘土状部(Hc-2) 上傾75°、下傾80°、明緑灰色を呈する。幅10~20mm。 109.32~109.46m: 粘土混じり礫状部(Hg) 上傾80°でやや波打って、下傾80°で湾曲して連続。下端には幅1mmの白色粘土を伴う。径2~30mmの礫主体で細粒部が分布する。明緑灰色を呈する。幅60mm程度。	
499	109.30	109.32	砂質粘土状。△80°、幅10~20mm。(Hc-2)。	109.30	109.32	微細混じり粘土状。下傾△80°でやや波打って連続。幅10~20mm。(Hc-2)。 理質で、直線的に乏しく、原岩組織が認められる岩片を主体とし、基質も細粒化した岩片からなる組織は見られない。明緑灰色を呈する。	109.30	109.32	109.30~109.32m: 微細混じり粘土状部(Hc-2) 上傾75°、下傾80°、明緑灰色を呈する。幅10~20mm。 109.32~109.46m: 粘土混じり礫状部(Hg) 上傾80°でやや波打って、下傾80°で湾曲して連続。下端には幅1mmの白色粘土を伴う。径2~30mmの礫主体で細粒部が分布する。明緑灰色を呈する。幅60mm程度。	
500	109.32	109.46	△80°の割れ目の上盤側は全体に変質を受け、明緑灰色を呈する。原岩組織はやや不明瞭である。割れ目には厚さ1mmの白色粘土が存在する。(Hd)。粘土混じり礫状部。 上傾80°でやや波打って連続。下傾80°で湾曲する。理質で含まれる細粒部は網目状に分布し、原岩組織が認められる岩片を主体とし、基質も細粒化した岩片からなる組織は見られる。幅60mm程度。	109.32	109.46	△80°の割れ目の上盤側は全体に変質を受け、明緑灰色を呈する。原岩組織はやや不明瞭である。割れ目には厚さ1mmの白色粘土が存在する。(Hd)。粘土混じり礫状部。 上傾80°でやや波打って連続。下傾80°で湾曲する。理質で含まれる細粒部は網目状に分布し、原岩組織が認められる岩片を主体とし、基質も細粒化した岩片からなる組織は見られる。幅60mm程度。	109.32	109.46	109.32~109.46m: 粘土混じり礫状部(Hg) 上傾80°でやや波打って、下傾80°で湾曲して連続。下端には幅1mmの白色粘土を伴う。径2~30mmの礫主体で細粒部が分布する。明緑灰色を呈する。幅60mm程度。	
501	109.46	109.70	△80°の割れ目の下盤側は変質を受け、にぶい緑色を呈する。	109.46	109.70	破砕帯の下盤側は変質を受け、にぶい緑色を呈する。	109.46	109.70	109.46~109.70m: 破砕帯の下盤側は寄質を受け、にぶい緑色を呈する。	
502	109.46	112.49	中角度の割れ目が多く、岩片状~細礫状で採取される。	109.46	112.49	30~50°の割れ目が多く、岩片状~細礫状で採取される。	109.46	112.49	109.46~112.49m: 傾斜30~50°の割れ目が多く、岩片状~細礫状を呈する。	



コア観察カード⇒報告書柱状図記載記事チェックシート(H24-B14-2)

孔名: H24-B14-2

コア観察カード			適正化すべき記事内容			報告書柱状図記事			コア観察カードの適正化すべき記事内容から記事を削除・変更・追記した理由 (コア観察カードからの変更点) (コア観察カードを適正化している場合は、それとの変更点)
記事			記事 (変更箇所を半書きで表示) (変更していないものは「-」で表示)			選定した記事内容			
上端深度	下端深度	コア観察カードから正しく転記されているか? <input checked="" type="checkbox"/>	上端深度	下端深度	追加変更した情報が正しく転記されているか? <input checked="" type="checkbox"/>	上端深度	下端深度		
503	109.84	109.84	109.84	109.84	109.84	109.84	109.84	109.84m: 傾斜70°で幅1mmの白色粘土を挟む。	
504	110.12	110.78	110.12	110.78	110.12	110.12	110.78	110.12~110.78m: 傾斜30~50°の割れ目が密集し、細礫状を呈する。	
505	-	-	110.80	110.85	110.80	110.80	110.85	110.80m, 110.85m: 傾斜50°で幅0~1mmの方解石層を挟む。	
506	110.95	111.16	-	-	110.95	110.95	111.16	110.95~111.16m: 変質が著しく、暗緑灰色を呈する。礫状~細礫状コアコナリ、フィルム状の白色粘土が網目状に分布する。	*記事欄以外から読み取れる硬さの情報は記載しない
507	111.16	111.55	111.16	111.55	111.16	111.16	111.55	(割れ目状懸濁)hランク	
508	111.78	111.86	111.78	111.86	111.78	111.78	111.86	111.78~111.86m: 傾斜45°程度の割れ目が密集し、細礫状を呈する。一部白色粘土が網目状に分布する。	
509	111.80	111.80	111.80	111.80	111.80	111.80	111.80	111.80m: 傾斜45°で幅4~6mmの暗灰色砂泥り粘土を挟む。	
510	112.28	112.46	112.28	112.46	112.28	112.28	112.46	(コアの形状欄)Vランク	
511	112.28	112.46	112.28	112.46	112.28	112.28	112.46	112.28~112.46m: 傾斜40~50°の割れ目が数mm~2cm間隔で密集し、変質が認められる。	
512	112.40	112.50	112.40	112.50	112.40	112.40	112.50	(コアの形状欄)Vランク (コアの硬さ欄)Bランク (岩級区分欄)GM	
513	112.46	113.44	112.46	113.44	112.46	112.46	113.44	(割れ目状懸濁)hランク	
514	112.50	113.44	112.46	113.44	112.46	113.44	113.44	新鮮で硬質で柱状~岩片状で採取される。	*記事欄以外から読み取れる硬さやコアの形状の情報は記載しない
515	113.44	113.90	113.44	113.90	113.44	113.90	113.90	20~50°の割れ目が多く、岩片状~細礫状で採取される。	
516	113.52	113.82	-	-	113.52	113.82	113.82	113.52~113.82m: 全体に弱く変質する。	
517	113.58	113.58	113.58	113.58	113.58	113.58	113.64	113.58m, 113.64m: 傾斜46°, 48°の割れ目に幅1mmで黄鉄鉱晶出す。	*記事内容が同じであるため、113.64mの記事を含めて記載した
518	113.64	113.64	113.64	113.64	113.64	113.64	113.64	48°の割れ目に厚さ1mmで黄鉄鉱晶出す。	*上記でまとめ書きしたため記載しない
519	113.90	116.33	113.90	116.33	113.90	116.33	116.33	(割れ目状懸濁)hランク	
520	113.90	114.66	113.90	114.66	113.90	114.66	114.66	新鮮・硬質で、割れ目は比較的少なく、柱状~岩片状で採取される。	*記事欄以外から読み取れる硬さやコアの形状の情報は記載しない
521	-	-	114.42	114.65	114.42	114.65	114.65	傾斜75°, 幅10~13mmの石英脈を挟む。	
522	114.66	116.33	-	-	114.66	116.33	116.33	114.66~116.33m: 割れ目が多く、岩片~礫状を呈する。	
523	115.24	115.52	-	-	115.24	115.52	115.52	115.24~115.52m: 割れ目が密集し、主に礫状を呈する。	
524	116.04	116.04	116.04	116.04	116.04	116.04	116.04	116.04m: 傾斜45°で幅1~2mmの灰色粘土を挟む。	
525	116.33	117.37	116.33	117.37	116.33	117.37	117.37	新鮮・硬質で、割れ目は比較的少なく、柱状~岩片状で採取される。	*記事欄以外から読み取れる硬さやコアの形状の情報は記載しない
526	-	-	117.00	117.30	117.00	117.30	117.30	径5~10mmの褐色のカリ長石、淡緑色の長石の斑晶が目立つ。	
527	117.22	126.52	117.22	126.52	117.22	126.52	126.52	(割れ目状懸濁)hランク	
528	117.37	120.00	117.37	117.58	117.37	117.58	117.58	割れ目多く、岩片状~礫状で採取される。	

コア観察カード⇒報告書柱状図記載記事チェックシート(H24-B14-2)

孔名: H24-B14-2

コア観察カード			適正化すべき記事内容			報告書柱状図記事			コア観察カードの適正化すべき記事内容から記事を削除・変更・追記した理由 (コア観察カードからの変更点) (コア観察カードを適正化している場合は、それとの変更点)
記事			記事 (変更箇所を赤字で表示 (変更していないものは「-」で表示)			記事			
上端深度	下端深度	記事	上端深度	下端深度	記事	上端深度	下端深度	記事	
		コア観察カードから正しく転記されているか? <input checked="" type="checkbox"/>			追加変更した情報が正しく転記されているか? <input checked="" type="checkbox"/>			選定した記事内容	
529	117.58	117.58	117.48	117.48	117.48	117.48	117.48	117.46m、傾斜45°、幅2~4mmで黄鉄鉱が晶出する。緑泥石、方解石(塩酸で発泡する)を伴う。	
530	117.95	120.00	117.95	125.10	117.95	125.10	117.95	117.95~125.10m 割れ目が多く、岩片状~細礫状を呈する。	
531	118.42	120.00	118.42	120.00	118.42	120.00	118.42	120.00m (風化層)βランク	
532	118.42	122.18	118.42	122.18	118.42	122.18	118.42	122.18m (コアの硬さ層)βランク	
533	118.83	118.92	-	-	118.83	118.92	118.83	118.92m 主に細礫状を呈する。	
534	119.32	119.32	119.32	119.32	119.32	119.32	119.32	119.32m 傾斜20°で幅1mmの灰白色粘土を挟む。	
535	120.00	-	120.00	-	120.00	-	120.00	120.00m 120m以上で見掛け上、残留するコアも1~3cm間隔で低密着割れ目が分布し、ハンマーの軽打で低密着割れ目に沿って岩片化する。各割れ目の面は変質で暗緑色化することがある。長石は概ね白濁化している。	*形跡的な記載であり、下記に具体的に記載があるため記載しない
536	120.30	122.00	-	-	120.30	122.00	120.30	122.00m 傾斜10~40°と60~80°の割れ目が交差し、径1~3cmに細かく岩片化している。	
537	120.50	120.50	120.50	120.50	120.50	120.50	120.50m 傾斜72°で幅0.5mmの淡緑灰色粘土を挟む。		
538	121.15	121.15	121.09	121.50	121.09	121.50	121.09	121.50m 傾斜85~90°の割れ目に幅0.5mmの淡緑灰色粘土を挟む。	
539	121.50	121.50	121.50	121.50	121.50	121.50	121.50m 傾斜80°の割れ目に淡緑色の粘土(厚さ0.5mm)が付着する。		
540	122.18	122.40	122.18	122.40	122.18	122.40	122.18	122.40m 傾斜55~60°の割れ目沿いで一部軟質化する。白色化しているが変質粘土は伴わない。	*記事欄以外から読み取れる硬さの情報は記載しない
541	122.28	128.42	122.28	128.42	122.28	128.42	122.28	128.42m (コアの硬さ層)βランク	
542	122.80	122.80	122.82	122.82	122.82	122.82	122.82	122.82m 傾斜55°で幅0.5mmの淡緑灰色粘土を挟む。割れ目の下側面が幅2cmで硬さDに軟質化する。	
543	122.99	122.99	122.99	122.99	122.99	122.99	122.99	122.99m 傾斜60°で幅0.5mmの淡緑灰色粘土を挟む。	
544	123.10	129.41	123.10	125.10	123.10	125.10	123.10	125.10m 見掛け上、5~10cmの短柱状コアであるが、1~3cmで低密着割れ目が発達し、ここから岩片化しやすい(コア形状「V」)。	*記事欄以外から読み取れるコアの形状の情報は記載しない
545	123.39	123.39	123.39	123.39	123.39	123.39	123.39	123.39m 傾斜70°で幅0.5~1cmで粘土混じり礫状を呈するが、礫の回転や移動はしていない。下層側の70°割れ目の面には暗緑色粘土(厚さ0.5mm以下)と黄鉄鉱が晶出する。また、123.39mには上記の70°礫状層とほぼ直交する真幅2cmの暗緑層が分布し、下層側の割れ目の面の一部に暗緑色粘土(厚さ0.5mm以下)が付着し、変質をもつ。また、若干の黄鉄鉱も晶出している。	
546	124.59	124.89	124.59	124.89	124.59	124.89	124.59	124.89m 互いに直交する約45°の割れ目沿いに割れ、φ1~3cmの岩片を呈する。脱色により白色化した低密着割れ目から分離、岩片化したと推定される。	
547	124.89	129.41	124.89	129.10	124.89	129.10	124.89	129.10m 見掛け上は5~10cmの短柱状コア主体であるが、コア形状は1~3cmで脱色により白色化した低密着割れ目を伴い、低密着割れ目沿いに分離、薄片化する(コア形状「V」)。	*記事欄以外から読み取れるコアの形状の情報は記載しない
548	125.10	125.65	125.30	125.65	125.30	125.65	125.30	125.65m 傾斜35°、125.65m、30°の各割れ目面と割れ目周辺2~3cmが変質により暗緑色化、後者の割れ目の面には暗緑色粘土(厚さ0.5mm以下)が付着する。また、若干の黄鉄鉱が晶出している。	
549	125.10	125.65	125.10	125.65	125.10	125.65	125.10	125.65m (コアの形状層)IVランク(岩級区分層)CM	
550	126.00	126.65	126.00	126.65	126.00	126.65	126.00	126.65m 傾斜60°で互いに直交する傾斜約45°の割れ目が分布し、径1~3cmの岩片状を呈する。脱色により白色化した低密着割れ目から分離、岩片化したものと推定される。	



コア観察カード⇒報告書柱状図記載記事チェックシート(H24-B14-2)

孔名:H24-B14-2

	コア観察カード		適正化すべき記事内容		報告書柱状図記事		コア観察カードの適正化すべき記事内容から記事を削除・変更・追記した理由 (コア観察カードからの変更点) (コア観察カードを適正化している場合は、それとの変更点)	
	上端深度	下端深度	記事	記事 (変更箇所を赤字で表示) (変更していないものは「-」で表示)	上端深度	下端深度		
			コア観察カードから正しく転記されているか? <input checked="" type="checkbox"/>	追加変更した情報が正しく転記されているか? <input checked="" type="checkbox"/>				
551	126.25	126.67	45°前後の割れ目や低密着割れ目さいを主体に暗緑色化と赤褐色化部が互層状に分布する。粘土付着や粘土層は分布しない。	45°前後の割れ目や低密着割れ目沿いに主体に暗緑色化と赤褐色化部が互層状に分布する。粘土付着や粘土層は分布しない。	126.25	126.67	126.25～126.67m: 傾斜45°前後の割れ目や低密着割れ目沿いに暗緑色化と赤褐色化部が互層状に分布する。粘土付着や粘土層は分布しない。	
552	126.62	126.62	35°割れ目に緑色粘土付着し、微細な黄鉄鉱が晶出。	-	126.62	126.62	126.62m: 傾斜35°の割れ目に緑色粘土が付着し、微細な黄鉄鉱が晶出する。	
553	126.67	130.30	(割れ目状態欄)Cランク	(割れ目状態欄)Bランク	126.67	130.30	(割れ目状態欄)Bランク	
554	126.72	126.72	126.72m付近より割れ目は未風化となる。長石の白濁化も認められなくなる。	126.72 126.72 126.72m付近より割れ目は未風化となる。長石の白濁化も認められなくなる。	-	-	-	
555	126.80	127.04	25°と60～70°割れ目のいずれもが約1cm間隔で分布し交差するため、φ1cm前後の岩片に砕けている。割れ目の面はほぼ未風化で、粘土の付着もない。	-	126.80	127.04	126.80～127.04m: 傾斜35°と60～70°の割れ目のいずれもが約1cm間隔で分布し交差する。径1cm前後の岩片状を呈する。割れ目の面はほぼ未風化で、粘土の付着もない。	
556	127.73	127.90	石英が濃集し、全体として粒質となる。	径1～3cm程度の石英、長石、カリ長石の斑晶が濃集する。全体として粒質となる。	127.73	127.90	127.73～127.90m: 径1～3cm程度の石英、長石、カリ長石の斑晶が濃集する。	
557	127.63	127.63	45°割れ目に真幅0.5mmの暗緑色粘土が付着し、φ0.1～0.2mmの微細な黄鉄鉱が晶出。	-	127.63	127.63	127.63m: 傾斜45°で幅0.5mmの暗緑色粘土を挟む。径0.1～0.2mmの微細な黄鉄鉱が晶出する。	
558	127.80	128.50	30～40°と60～80°割れ目が交差し、φ1～3cmの硬質岩片を呈する。粘土付着は劣化は認められない。	30～40°と60～80°割れ目が交差し、φ1～3cmの硬質岩片を呈する。粘土付着は劣化は認められない。	127.80	128.15	127.80～128.15m: 傾斜30～40°と60～80°の割れ目が交差し、径1～3cmの硬質岩片状を呈する。粘土の付着はなく、劣化は認められない。	
559	128.58	128.58	40°割れ目に真幅1mmの暗緑色粘土が付着。真幅0.5mmの白色・方解石脈を伴う。	-	128.58	128.58	128.58m: 傾斜40°で幅1mmの暗緑色粘土を挟み、幅0.5mmの白色・方解石脈を伴う。	
560	128.60	128.90	概ね1～3cm間隔で低密着割れ目が多く分布し、ハンマーの軽打で細岩片化する。	-	128.60	128.90	128.60～128.90m: 概ね1～3cm間隔で低密着割れ目が多く分布し、ハンマーの軽打で細岩片化する。	
561	128.70	131.00	(コアの硬さ欄)Cランク	(コアの硬さ欄)Bランク	128.70	131.00	(コアの硬さ欄)Bランク	
562	129.00	129.08	60～80°と20～30°割れ目が交差し、φ1cm程度に細片化する。岩片自身は硬い(BJ)。	60～80°と20～30°割れ目が交差し、φ1cm程度に細片化する。岩片自身は硬い(BJ)。	129.00	129.08	129.00～129.08m: 傾斜60～80°と20～30°の割れ目が交差し、径1cm程度に細片化する。	記事欄以外から読み取れる硬さの情報は記載しない
563	129.08	129.40	長さ3～6mmの短柱状コア中には低密着割れ目が1～2cm間隔で観察に分布し、ハンマーの打撃でφ1～2cmに細片化する。	長さ3～6mmの短柱状コア中には低密着割れ目が1～2cm間隔で観察に分布し、ハンマーの打撃でφ1～2cmに細片化する。	129.08	129.40	129.08～129.40m: 長さ3～6mmの短柱状コア中には低密着割れ目が1～2cm間隔で観察に分布し、ハンマーの打撃でφ1～2cmに細片化する。	
564	129.60	129.60	70°と80°割れ目が近接し、両割れ目で囲まれた範囲ではφ0.5～1cm程度に細片化する。粘土の付着、粘土層は分布しない。	-	129.60	129.60	129.60m: 傾斜70°と80°の割れ目が近接し、両割れ目で囲まれた範囲では径0.5～1cm程度に細片化する。粘土の付着、粘土層は分布しない。	
565	130.16	130.16	130.16、35°割れ目の一部が暗色風化する。劣化は伴わない。	130.16m、35°割れ目の一部が暗色風化する。劣化は伴わない。	130.16	130.16	130.16m: 傾斜35°の割れ目の一部が暗色に風化するが、劣化は伴わない。	
566	130.16	-	130.16m以降では、長石(φ2～3mm)の一部が白濁化する。	-	130.16	-	130.16m以降では、径2～3mmの長石の一部が白濁化する。	
567	129.79	131.00	25～45°とこれと直交しない斜交する10～40°割れ目が交差し、φ1～3cmの岩片を呈する。割れ目には粘土付着や粘土層は分布しない。	-	129.79	131.00	129.79～131.00m: 傾斜35～45°と、これと斜交する傾斜10～40°の割れ目が分布し、径1～3cmの岩片状を呈する。粘土付着や粘土層は分布しない。	
568	130.50	130.54	45°割れ目さいに暗緑色化する。粘土化はないが、真幅1～3mm石英脈を伴う。	45°割れ目沿いに暗緑色化する。粘土化はないが、真幅1～3mm石英脈を伴う。	130.50	130.54	130.50～130.54m: 傾斜45°の割れ目沿いに暗緑色化する。粘土化はないが、幅1～3mmの石英脈を伴う。	
569	130.57	131.00	(割れ目状態欄)Cランク	(割れ目状態欄)Bランク	130.57	131.00	(割れ目状態欄)Bランク	
570	131.00	132.00	ソコア(コア採取できず)	コア欠如(コア採取できず)	131.00	132.00	131.00～132.00m: コア欠如	
571	131.00	132.00	(地質名欄)空欄	(地質名欄)コア欠如	131.00	132.00	(地質名欄)コア欠如	
572	132.00	133.46	上記同様、割れ目と低密着割れ目が1～3cm程度の間隔で密に分布し、φ1～3cm程度に岩片化した部分を多く含む。変質と風化による劣化はないが、133.46mの10°割れ目には暗緑色粘土が厚さ1mm程度で付着している。	-	132.00	133.46	132.00～133.46m: 割れ目と低密着割れ目が1～3cm程度の間隔で密に分布し、径1～3cm程度に岩片化した部分を多く含む。変質と風化による劣化はないが、133.46mの傾斜10°の割れ目には幅1mm程度の暗緑色粘土を挟む。	
573	132.00	134.00	(割れ目状態欄)Cランク (コアの硬さ欄)Cランク	(割れ目状態欄)Bランク (コアの硬さ欄)Bランク	132.00	134.00	(割れ目状態欄)Bランク (コアの硬さ欄)Bランク	
574	132.00	133.30	132.00～132.65mと133.10～133.30mは、φ1～2cmの岩片に砕けて採取されているが、岩片は硬い(硬さCJ)。	132.00～132.65mと133.10～133.30mは、φ1～2cmの岩片に砕けて採取されているが、岩片は硬い(硬さCJ)。	132.00	133.30	132.00～132.65mと133.10～133.30mは、径1～2cmの岩片状を呈する。	記事欄以外から読み取れる硬さの情報は記載しない

コア観察カード⇒報告書柱状図記載記事チェックシート(H24-B14-2)

孔名: H24-B14-2

No.	コア観察カード		適正化すべき記事内容		報告書柱状図記事		コア観察カードの適正化すべき記事内容から記事を削除・変更・追加した理由 (コア観察カードを適正化している場合は、それとの変更点)													
	上端深度	下端深度	記事	記事 (変更箇所を全書きで表示) (変更していないものは「-」で表示)	上端深度	下端深度		記事												
			コア観察カードから正しく転記されているか? <input checked="" type="checkbox"/>				追加変更した情報が正しく転記されているか? <input checked="" type="checkbox"/>													
575	133.57	134.00	割れ目沿いに長さ5mm前後の扁平な細礫に砕けている部分が多い。扁平礫自身は硬質で劣化はない。また、礫には粘土は付着していない。	133.57	134.00	割れ目沿いに長さ6mm前後の細長い細礫に砕けている部分が多い。扁平礫自身は硬質で劣化はない。また、礫には粘土は付着していない。	133.57	134.00	133.57~134.00m: 割れ目沿いに長さ5mm前後の細礫状を呈する部分が多い。礫には粘土は付着しない。	134.00	134.00	134.00~135.00m: コア欠如	-	-	-	-	-	-	記事欄以外から読み取れる硬さの情報は記載しない	
576	134.00	135.00	134.00~135.00m、ノンコア(採取できず)	134.00	135.00	134.00~135.00m、コア欠如(採取できず)	134.00	135.00	134.00~135.00m: コア欠如	135.00	135.00	135.00~135.50m: コア欠如	-	-	-	-	-	-	-	
577	134.00	135.00	(地質名欄)空欄	134.00	135.00	(地質名欄)コア欠如	134.00	135.00	(地質名欄)コア欠如	135.00	135.00	(地質名欄)コア欠如	-	-	-	-	-	-	-	
578	135.00	135.50	岩片は10~30° 主体に1~2cm間隔で細かく割れ目が分布。岩片自身は硬質。割れ目に粘土付着や粘土膜の挟在はない。石英の斑晶は肉眼では確認できない。	135.00	135.50	岩片は10~30° 主体に1~2cm間隔で細かく割れ目が分布。岩片自身は硬質。割れ目に粘土付着や粘土膜の挟在はない。石英の斑晶は肉眼では確認できない。	135.00	135.50	135.00~135.50m: 傾斜10~30°の割れ目が1~2cm間隔で分布し、岩片状を呈する。割れ目に粘土付着や粘土膜の挟在はない。	135.50	135.50	135.50~136.00m: コア欠如	-	-	-	-	-	-	記事欄以外から読み取れる硬さの情報は記載しない	
579	135.00	135.50	(割れ目状悪欄)Cランク (コアの硬さ欄)Cランク	135.00	135.50	(割れ目状悪欄)Bランク (コアの硬さ欄)Bランク	135.00	135.50	(割れ目状悪欄)Bランク (コアの硬さ欄)Bランク	135.50	135.50	135.50~136.00m: コア欠如	-	-	-	-	-	-	-	
580	135.50	136.00	ノンコア(採取できず)	135.50	136.00	コア欠如(採取できず)	135.50	136.00	135.50~136.00m: コア欠如	136.00	136.00	136.00~136.20m: コア欠如	-	-	-	-	-	-	-	
581	135.50	136.00	(地質名欄)空欄	135.50	136.00	(地質名欄)コア欠如	135.50	136.00	(地質名欄)コア欠如	136.00	136.00	136.00~136.20m: コア欠如	-	-	-	-	-	-	-	
582	136.00	136.20	φ1~2cm程度に砕けて岩盤状況は不明であるが、各岩片には粘土付着がないため、割れ目間隔1~2cmのクラッカーで岩盤を評価し、細区分合せを「cVC」と評価し、本区間をCLと判定した。	136.00	136.20	φ1~2cm程度に砕けて岩盤状況は不明であるが、各岩片には粘土付着がないため、割れ目間隔1~2cmのクラッカーで岩盤を評価し、細区分合せを「bVB」と評価し、本区間をCLと判定した。	136.00	136.20	136.00~136.30m: 径1~2cm程度の岩片状を呈する。岩片に粘土は付着しない。	136.20	136.20	136.20~136.30m: コア欠如	-	-	-	-	-	-	岩片状で岩盤区分要素の組合せが同じ区間をまとめ書きした 記事欄以外から読み取れる各要素の組合せや岩盤の情報は記載しない	
583	136.00	136.30	(割れ目状悪欄)Cランク (コアの硬さ欄)Cランク (岩盤区分欄)D	136.00	136.30	(割れ目状悪欄)Bランク (コアの硬さ欄)Bランク (岩盤区分欄)CL	136.00	136.30	(割れ目状悪欄)Bランク (コアの硬さ欄)Bランク (岩盤区分欄)CL	136.30	136.30	136.30~136.50m: コア欠如	-	-	-	-	-	-	-	
584	136.30	136.50	(岩盤区分欄)D	136.30	136.50	(岩盤区分欄)CL	136.30	136.50	(岩盤区分欄)CLに含める	136.50	136.50	136.50~136.60m: コア欠如	-	-	-	-	-	-	-	
585	136.20	136.27	cVC組合せのCL。	136.20	136.30	bVB組合せのCL。	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	上記でまとめ書きしたため記載しない	
586	136.27	136.50	スライムも多く含むが、avidのみとし、D級と判定した。	136.30	136.50	スライムも多く含むが、avidのみとし、D級と判定した。	136.30	136.50	136.30~136.50m: スライムを多く含む。	136.50	136.50	136.50~136.75m: コア欠如	-	-	-	-	-	-	記事欄以外から読み取れる各要素の組合せや岩盤の情報は記載しない	
587	136.50	136.75	ノンコア(採取できず)。部分的に粘土状のものを含む。	136.50	136.75	コア欠如(採取できず)。部分的に粘土状のものを含む。	136.50	136.75	136.50~136.75m: コア欠如。部分的に粘土状のものを含む。	136.75	136.75	136.75~137.08m: コア欠如	-	-	-	-	-	-	-	
588	136.50	136.75	(地質名欄)空欄	136.50	136.75	(地質名欄)コア欠如	136.50	136.75	(地質名欄)コア欠如	137.08	137.08	137.08~137.21m: コア欠如	-	-	-	-	-	-	-	
589	136.75	137.08	φ1~2cmの岩片に砕ける岩盤状況は不明であるが、136.00~136.20mと同じ理由によりCL級と判定した。	136.75	137.08	φ1~2cmの岩片に砕ける岩盤状況は不明であるが、136.00~136.20mと同じ理由によりCL級と判定した。ただし、組合せはcVCである。	136.75	137.08	136.75~137.08m: 径1~2cmの岩片からなる。	137.08	137.08	137.08~137.21m: コア欠如	-	-	-	-	-	-	-	記事欄以外から読み取れる各要素の組合せや岩盤の情報は記載しない
590	137.08	138.21	(地質名欄)3ランク	137.08	138.21	(地質名欄)3ランク	137.08	138.21	(地質名欄)3ランク	138.21	138.21	138.21~138.42m: コア欠如	-	-	-	-	-	-	-	
591	137.08	138.42	全体に緑色をおびている(緑泥石化の交代作用?)。割れ目間隔が概ね1~3cmの10~30° 割れ目とこれと斜交する40~50° 割れ目からなる。微小の黄鉄鉱が露出する。上記の両割れ目系交差部の一部や、137.67~137.73mの45~50° 割れ目では、φ1cm前後の放射状構造を呈し、暗緑色粘土が付着する可能性がある。石英の斑晶は肉眼では確認できない。	137.08	138.42	全体に緑色をおびている(緑泥石化の交代作用?)。割れ目間隔が概ね1~3cmの10~30° 割れ目とこれと斜交する40~50° 割れ目からなる。微小の黄鉄鉱が露出する。上記の両割れ目系交差部の一部や、137.67~137.73mの45~50° 割れ目沿いでは、φ1cm前後の放射状構造を呈し、暗緑色粘土が付着する可能性がある。石英の斑晶は肉眼では確認できない。	137.08	138.42	137.08~138.42m: 全体に緑泥石化により緑色をおびている。概ね1~3cm間隔で傾斜10~30°の割れ目と、これと斜交する傾斜40~50°の割れ目が発達する。微小の黄鉄鉱が露出する。上記の両割れ目系の交差部の一部や、137.67~137.73mの傾斜45~50°の割れ目沿いでは、径1cm前後の礫状を呈し、暗緑色粘土が付着する可能性があるが、礫の回転や移動は見られず、定向配列もしていない。	138.42	138.42	138.42~138.60m: コア欠如	-	-	-	-	-	-	-	
592	138.21	138.42	(地質名欄)3ランク	138.21	138.42	(地質名欄)4ランク	138.21	138.42	(地質名欄)4ランク	138.60	138.60	138.60~138.81m: コア欠如	-	-	-	-	-	-	-	
593	138.21	138.42	交代作用による岩盤劣化部。割れ目には暗緑色鉱物が付着し、全体に緑色をおびる。	138.21	138.42	交代作用による岩盤劣化部。割れ目には暗緑色鉱物が付着し、全体に緑色をおびる。	138.21	138.42	138.21~138.42m: 交代した割れ目帯部で原岩組織は認められる。割れ目には暗緑色鉱物が付着し、全体に緑色をおびる。	138.42	138.42	138.42~138.60m: コア欠如	-	-	-	-	-	-	-	
594	138.38	138.42	上位に比べて岩盤が劣化し、(交代作用による)細粒化する。岩自体も軟質となる(硬さ)。	138.38	138.42	上位に比べて岩盤が劣化し、(交代作用による)細粒化する。岩自体も軟質となる(硬さ)。原状の粘土は伴わない。	138.38	138.42	138.38~138.42m: 上位に比べて軟質化し硬さ「E」となり、細粒化する。原状の粘土は伴わない。	138.42	138.42	138.42~138.60m: コア欠如	-	-	-	-	-	-	-	
595	138.42	139.21	(割れ目状悪欄)Cランク (コアの硬さ欄)Cランク	138.42	139.21	(割れ目状悪欄)Bランク (コアの硬さ欄)Bランク	138.42	139.21	(割れ目状悪欄)Bランク (コアの硬さ欄)Bランク	139.21	139.21	139.21~139.42m: コア欠如	-	-	-	-	-	-	-	



コア観察カード⇒報告書柱状図記載記事チェックシート(H24-B14-2)

孔名: H24-B14-2

コア観察カード			適正化すべき記事内容			報告書柱状図記事			コア観察カードの適正化すべき記事内容から記事を削除・変更・追記した理由 (コア観察カードからの変更点) (コア観察カードを適正化している場合は、それとの変更点)
上端深度	下端深度	記事	上端深度	下端深度	記事 (変更箇所を赤字で表示) (変更していないものは「-」で表示)	上端深度	下端深度	選定した記事内容	
		コア観察カードから正しく転記されているか? <input checked="" type="checkbox"/>			追加変更した情報が正しく転記されているか? <input checked="" type="checkbox"/>				
596	138.42	140.04	138.42	140.04	138.42	140.04	138.42	140.04	記事種以外から読み取れる硬さの情報は記載しない
597	138.63	138.66	138.63	138.66	138.63	138.66	138.63	138.66	記事種以外から読み取れる硬さの情報は記載しない
598	139.21	139.50	139.21	139.50	139.21	139.50	139.21	139.50	記事種以外から読み取れる硬さの情報は記載しない
599	139.50	140.04	139.50	140.04	139.50	140.04	139.50	140.04	-
600	139.50	150.00	139.50	150.00	139.50	150.00	139.50	150.00	-
601	140.04	140.33	140.04	140.33	140.04	140.33	140.04	140.33	記事種以外から読み取れる硬さの情報は記載しない
602	140.04	140.33	140.04	140.33	140.04	140.33	140.04	140.33	-
603	140.33	141.71	-	-	-	-	140.33	141.71	-
604	140.33	141.71	140.33	141.71	140.33	141.71	140.33	141.71	-
605	141.71	142.00	141.71	142.00	141.71	142.00	141.71	142.00	-
606	141.71	142.00	141.71	142.00	141.71	142.00	141.71	142.00	記事種以外から読み取れる硬さの情報は記載しない
607	142.00	149.30	142.00	149.30	142.00	149.30	142.00	149.30	-
608	142.00	142.30	-	-	-	-	142.00	142.48	記事内容がほぼ同じであるため、142.30~142.48mの記事を含めて記載した
609	142.30	142.48	-	-	-	-	-	-	上記でまとめ書きしたため記載しない
610	142.48	143.53	142.48	143.53	142.48	143.53	142.48	143.53	-
611	143.53	145.46	-	-	-	-	143.53	145.46	-
612	143.53	145.46	143.53	145.46	143.53	145.46	143.53	145.46	-
613	145.46	146.17	145.46	146.17	145.46	146.17	145.46	146.17	-
614	146.17	146.71	146.17	146.71	146.17	146.71	146.17	146.71	-
615	146.17	146.71	146.17	146.71	146.17	146.71	146.17	146.71	-
616	146.71	147.13	-	-	-	-	146.71	147.13	-
617	146.90	146.90	-	-	-	-	146.90	146.90	-
618	147.13	147.13	147.13	147.13	147.13	147.13	147.13	147.13	-

コア観察カード⇒報告書柱状図記載記事チェックシート(H24-B14-2)

孔名: H24-B14-2

コア観察カード			適正化すべき記事内容			報告書柱状図記事			コア観察カードの適正化すべき記事内容から記事を削除・変更・追記した理由 【コア観察カードからの変更点】 (コア観察カードを適正化している場合は、それとの変更点)	
上端深度	下端深度	記事	上端深度	下端深度	記事 (変更箇所を赤字で表示) (変更していないものは「-」で表示)	上端深度	下端深度	選定した記事内容		
		コア観察カードから正しく転記されているか? <input checked="" type="checkbox"/>			追加変更した情報が正しく転記されているか? <input checked="" type="checkbox"/>					
619	147.13	149.30				147.13	149.30	147.13~149.30m 赤色を帯びる。傾斜50~70°の割れ目が直線し、微細な割れ目が発達し、亀甲状を呈する。割れ目沿いの細片化、細粒化がみられる。		
620	149.30	149.62				149.30	149.63	(コアの硬さ欄)Dランク		
621	149.30	149.63	割れ目沿いの細片化、細粒化がみられ、一部硬質部(硬さC)が残存するが、上下位に比べて軟質である。	149.30	149.63	割れ目沿いの細片化、細粒化が見られ、一部や硬質部(硬さC)が残存するが、上下位に比べて軟質である。	149.30	149.63	149.30~149.63m 割れ目沿いの細片化、細粒化がみられ、一部や硬質部が残存するが、上下位に比べて軟質である。	記事欄以外から読み取れる硬さの情報は記載しない
622	149.62	150.00	軽微な変質作用を受け、緑色を帯びる。上位に比べて岩自体は硬質である。微細な割れ目が見られる。	149.63	150.00	軽微な変質作用を受け、緑色を帯びる。上位に比べて岩自体は硬質である。微細な割れ目が見られる。	149.63	150.00	149.63~150.00m 軽微な変質を受け、緑色を帯びる。上位に比べて硬質である。微細な割れ目が見られる。	
623	149.63	150.00				149.63	150.00	(コアの硬さ欄)Dランク		
624	149.80	149.85	変質作用による岩盤劣化部、幅40mm、上下端とも傾斜40°をなし、上下端の硬岩部と明瞭に境される。暗緑色の熱水変質脈を不規則に伴い、暗緑色を帯びる。上下位に比べて軟質(硬さD)となる。	149.80	149.85	変質作用による岩盤劣化部、幅40mm、上下端とも傾斜40°をなし、上下端の硬岩部と明瞭に境される。暗緑色の熱水変質脈を不規則に伴い、暗緑色を帯びる。上下位に比べて軟質(硬さD)となる。	149.80	149.85	149.80~149.85m 傾斜40°、幅40mmで変質し、暗緑色の熱水変質脈を不規則に伴い、暗緑色を帯びる。上下位に比べて軟質で硬さDとなる。周囲の硬岩部との境界は明瞭である。	



余白

H24-D1-3



コア観察カード⇒報告書柱状図記載記事チェックシート(H24-D1-3)

孔名:H24-D1-3

コア観察カード			適正化すべき記事内容			報告書柱状図記事			コア観察カードの適正化すべき記事内容から記事を削除・変更・追記した理由 (コア観察カードからの変更点) (コア観察カードを適正化している場合は、それとの変更点)	
上端深度	下端深度	記事 コア観察カードから正しく転記されているか? <input checked="" type="checkbox"/>	上端深度	下端深度	記事 (変更箇所を赤字で表示) (変更していないものは「-」で表示) 追加変更した情報が正しく転記されているか? <input checked="" type="checkbox"/>	上端深度	下端深度	選定した記事内容		
1	0	3.57	埋戻し土	0.00	9.84	盛土	0.00	9.84	0.00~9.84m:盛土	-
2	0.0	0.18	礫 φ5~20mm黒色砕石からなる	0.00	0.18	礫 φ5~20mm黒色砂岩からなる	0.00	0.18	0.00~0.18m:礫 径5~20mmの黒色砂岩からなる。	-
3	0.18	3.57	礫混り粗砂 φ10~50mmのGp, Ap垂角礫を含む粗砂でルーズである。礫は殆んどが硬質である。φ3~10mmの碎石片も多く含む。	0.18	3.57	礫混り粗砂 φ10~50mmのGp, Ap垂角礫を含む粗砂でルーズである。礫は殆んどが硬質である。φ3~10mmの黒色砂岩片も多く含む。	0.18	3.57	0.18~3.57m:礫混り粗砂 径10~50mmの花崗斑岩, アブライトの垂角礫を含む粗粒砂でルーズである。礫は殆んどが硬質である。径3~10mmの黒色砂岩片も多く含む。	-
4	0.18	3.57	(地質名欄) 礫混り粗砂(埋戻し土)	0.18	3.57	(地質名欄) 礫混り粗砂(盛土)	0.00	3.57	(地質名欄) 盛土	・地質名欄に記載する人工堆積物の名称を統一した
5	3.57	4.00	中砂 ほぼ均質。ルーズである。最下部3.96m以深では若干シルト分混入する。	3.57	4.00	コア欠如(スライム) ほぼ均質な中砂。ルーズである。最下部3.96m以深では若干シルト分を含む。	3.57	4.00	3.57~4.00m:スライム ほぼ均質な中粒砂で、ルーズである。3.96m以深では若干シルト分を含む。	-
6	3.57	4.00	(地質名欄) 中砂(改良土)	3.57	4.00	(地質名欄) コア欠如	3.57	4.00	(地質名欄) コア欠如	-
7	4.00	4.49	礫・シルト混り中砂 φ2~5mm石英, 長石粒, φ5~20mmGp, Ap 碎石片を含む。若干のシルト分を混入する。ルーズである。	4.00	4.49	礫・シルト混り中砂 φ2~5mm石英, 長石粒, φ5~20mmGp, Ap, 黒色砂岩片を含む。若干のシルト分を含む。ルーズである。4.00m, 4.15m, 4.30m付近に木片を含む。	4.00	4.49	4.00~4.49m: 礫・シルト混り中砂 径2~5mmの石英粒, 長石粒, 径5~20mmの花崗斑岩, アブライト, 黒色砂岩片を含む。若干のシルト分を含む。ルーズである。4.00m, 4.15m, 4.30m付近に木片を含む。	-
8	4.00	4.49	(地質名欄) 礫・シルト混り中砂(改良土)	4.00	4.49	(地質名欄) 礫・シルト混り中砂(盛土)	4.00	6.00	(地質名欄) 盛土	・地質名欄に記載する人工堆積物の名称を統一した
9	4.49	6.00	礫混り粗砂 φ2~5mm石英, 長石粒, φ5~80mmGp, Gr, Ap垂角礫を含むルーズな粗砂。礫は殆んどが硬質。	4.49	6.00	礫混り粗砂 φ2~5mm石英, 長石粒, φ5~100mmGp, Gr, Ap垂角礫を含むルーズな粗砂。礫は殆んどが硬質。	4.49	6.00	4.49~6.00m: 礫混り粗砂 径2~5mmの石英粒, 長石粒, 径5~100mmの花崗斑岩, 黒雲母花崗岩, アブライトの垂角礫を含む。ルーズである。礫は殆んどが硬質。稀に黒色砂岩の礫も含む。	・当該区間に含まれる礫をまとめて書きした
10	4.49	6.00	(地質名欄) 礫混り粗砂(改良土)	4.49	6.00	(地質名欄) 礫混り粗砂(盛土)	-	-	-	・上記に含めて記載した
11	4.36	4.50	φ5~10mm垂角礫を多く含む砂礫状。	4.36	4.50	φ5~10mm垂角礫を多く含む砂礫状。	-	-	-	-
12	-	-	-	4.49	4.65	4.49m, 4.65m付近に径70~100mmのGr, Gp垂角礫を含む。	4.49	4.65	4.49m, 4.65m付近に径70~100mmの黒雲母花崗岩, 花崗斑岩の垂角礫を含む。	-
13	5.00	5.10	礫は孔壁からの落下コア	-	-	-	5.00	5.10	5.00~5.10m: 礫は孔壁から落下したコアである。	-
14	5.12	5.12	木片を含む	-	-	-	5.12	5.12	5.12m: 木片を含む。	-
15	5.30	5.30	付近に黒色の碎石片を含む	5.25	5.25	付近に黒色の砂岩を含む	5.25	5.25	5.25m付近に黒色の砂岩を含む。	-
16	5.70	5.70	φ3~4mm黒色砕石片数個が点在する。	5.70	5.70	φ3~4mm黒色砂岩数個が点在する。	5.70	5.70	5.70m: 径3~4mmの黒色砂岩片数個が点在する。	-
17	6.00	6.39	中砂 処々に粗砂が混入しやや不均質。ややルーズ	6.00	6.39	スライム 中砂からなる。所々、粗砂を含み、やや不均質。ややルーズ。	6.00	6.39	6.00~6.39m: スライム 中砂からなる。所々、粗砂を含み、やや不均質でややルーズ。	-
18	6.00	6.39	(地質名欄) 中砂(改良土)	6.00	6.39	(地質名欄) コア欠如	6.00	6.39	(地質名欄) コア欠如	-



## コア観察カード⇒報告書柱状図記載記事チェックシート(H24-D1-3)

孔名: H24-D1-3

コア観察カード			適正化すべき記事内容			報告書柱状図記事			コア観察カードの適正化すべき記事内容から記事を削除・変更・追記した理由 (コア観察カードからの変更点) (コア観察カードを適正化している場合は、それとの変更点)	
上端深度	下端深度	記事	上端深度	下端深度	記事 (変更箇所を赤字で表示) (変更していないものは「-」で表示)	上端深度	下端深度	選定した記事内容		
		記事 コア観察カードから正しく転記されているか? <input checked="" type="checkbox"/>			記事 (変更箇所を赤字で表示) (変更していないものは「-」で表示) 追加変更した情報が正しく転記されているか? <input checked="" type="checkbox"/>					
19	6.25	6.27	φ2~3mmの黒色碎石片を含む	6.25	6.27	φ2~3mmの黒色砂岩片を含む	6.25	6.27	6.25~6.27m: 径2~3mmの黒色砂岩片を含む。	-
20	6.39	7.40	砂礫 φ2~5mm石英粒、φ5~120mmの硬質なGp垂角礫~垂円礫と、粗砂の基質からなり、締っている。礫含有率は30~40%	-	-	-	6.39	7.40	6.39~7.40m: 砂礫 礫は径2~5mmの石英粒、径5~120mmの硬質な花崗斑岩の垂角~垂円礫からなり、礫率30~40%程度、基質は締まった粗砂からなる。	-
21	6.39	7.40	(地質名欄) 砂礫(改良土)	6.39	7.40	(地質名欄) 砂礫(盛土)	6.39	7.40	(地質名欄) 盛土	・地質名欄に記載する人工堆積物の名称を統一した
22	7.00	7.00	φ30mm(コア長)のGr半クサリ礫を含む	-	-	-	7.00	7.00	7.00m: 径30mmの黒雲母花崗岩の半クサリ礫を含む。	-
23	7.20	7.25	礫は孔壁から落下したコアである。	-	-	-	7.20	7.25	7.20~7.25m: 礫は孔壁から落下したコアである。	-
24	7.40	8.38	中砂 処々に粗砂や硬質礫を含み不均質 全体がややルーズである。	7.40	7.75	スライム 中砂からなる。 所々、粗砂や硬質礫を含み不均質 全体がややルーズである。	7.40	7.75	7.40~7.75m: スライム 中砂からなる。所々、粗砂や硬質礫を含み不均質。全体がややルーズである。	-
25	7.40	7.75	(地質名欄) 中砂	7.40	7.75	(地質名欄) コア欠如	7.40	7.75	(地質名欄) コア欠如	-
26	-	-	-	7.75	8.38	礫混じり砂 φ2~10mmのGr、Gp礫を含む細~中砂からなる。	7.75	8.38	7.75~8.38m: 礫混じり砂 径2~10mmの黒雲母花崗岩、花崗斑岩の礫を含む細~中砂からなる。	-
27	7.75	8.38	(地質名欄) 中砂(改良土)	7.75	8.38	(地質名欄) 礫混じり砂(盛土)	7.75	8.38	(地質名欄) 盛土	・地質名欄に記載する人工堆積物の名称を統一した
28	-	-	-	8.38	8.73	スライム 8.38~8.60m間は径10~30mmのGp硬質な垂角礫 主体で8.50mに径20mmの黒色砂岩礫も含む。 8.60~8.73m間は中砂からなる。	8.38	8.73	8.38~8.73m: スライム 8.38~8.60m間は径10~30mmの花崗斑岩の硬質な垂角礫主体で、8.50m に径20mmの黒色砂岩礫も含む。8.60~8.73m間は中砂からなる。	-
29	8.38	8.60	礫 φ10~30mmのGp硬質な垂角礫主体で、一部に孔 壁からの落下礫も含む 8.5mにφ20mm黒色碎石1つ含む	8.38	8.60	礫 φ10~30mmのGp硬質な垂角礫主体で、一部に孔 壁からの落下礫も含む 8.5mにφ20mm黒色碎石1つ含む	-	-	-	-
30	8.38	8.60	(地質名欄) 礫(改良土)	8.38	8.73	(地質名欄) コア欠如	8.38	8.73	(地質名欄) コア欠如	-
31	8.60	9.00	中砂 やや不均質である。上位側の8.60~8.13mにはスラ イムが混入する。8.60m以深は若干のシルトと小礫 が混入する。ややルーズである。	8.73	9.00	中砂 やや不均質である。上位側の8.60~8.13mにはスラ イムが混入する。8.60m以深は若干のシルトと小礫 を含む。ややルーズである。	8.73	9.00	8.73~9.00m: 中砂 やや不均質である。若干のシルトと小礫を含む。ややルーズである。	-
32	8.60	9.00	(地質名欄) 中砂(改良土)	8.73	9.00	(地質名欄) 中砂(盛土)	8.73	9.00	(地質名欄) 盛土	・地質名欄に記載する人工堆積物の名称を統一した